2021年3月1日発行
（毎月1回1日発行）（76巻3号）
ISSN 0035-7774

Digest of Science of Labour

労働の科学

労研創立 100周年 1921→2021

2021 March 3
Vol.76, No.3

特集

「新しい生活様式」での熱中症の予防と対策

労働環境改善に向けた取り組み
　―暑熱環境下でのリスク管理システム<Smartfit>について／藤田晴哉
子どもたちが快適に学び育つ学校環境の創造と対策／伊藤武彦
消防職場における暑熱・熱中症予防対策の現状と課題／中村義彰
安心・安全の職場環境実現を目指して／石川金属機工株式会社

巻頭言

ヘルスケア市場における労研の役割に期待
坂本郁夫

新連載　漂流者たち―クミジョの肖像①
本田一成

連載　今，チェルノブイリは③
千葉百子

大原記念労働科学研究所

Digest of Science of Labour

労働の科学

2021 March 3
Vol.76, No.3

巻頭言　俯瞰（ふかん）
創立百年――これからの労研の役割とあり方③
ヘルスケア市場における労研の役割に期待 1
坂本 郁夫［パラマウントベッド株式会社 常務取締役］

表紙作品：山本美智代
「山桜伝説」
シルクスクリーン＋ドローイング（76×54cm）
表紙デザイン：大西文子

特集 「新しい生活様式」での熱中症の予防と対策

労働環境改善に向けた取り組み
暑熱環境下でのリスク管理システム＜Smartfit＞について
..... ［倉敷紡績株式会社］藤田 晴哉 4

子どもたちが快適に学び育つ学校環境の創造と対策
..... ［岡山大学大学院教育学研究科］伊藤 武彦 8

消防職場における暑熱・熱中症予防対策の現状と課題
..... ［全国消防職員協議会］中村 義彰 17

安心・安全の職場環境実現を目指して
鋳造現場での熱中症予防の取り組み
..... 石川金属機工株式会社 22

Graphic

広がる参加型職場環境改善 3［見る・活動］(122)
..... 仲尾 豊樹 ..... 口絵

Series

労働を科学する (17)
中小企業における自主管理型産業安全保健の取り組み
日本と韓国における参加型職場環境改善に着目して ..... 石丸 知宏, 原 邦夫, 李 明淑 27

労研アーカイブを読む (66)
高度経済成長期の日本の産業現場を働く人のエネルギー消費により明らかにした ..... 岸田 孝弥 34

「新日本の青年」大原孫三郎
大原孫三郎と清水安三(1) ..... 兼田 麗子 42

漂流者たち クミジョの肖像 (1)
連載のはじめに ..... 本田 一成 46

凡夫の安全衛生記 (50)
「思いを引き継ぐ」産業安全運動100年 ..... 福成 雄三 48

今, チェルノブイリは
チェルノブイリ原子力発電所周辺視察報告 (3) ..... 千葉 百子 51

Column

BOOKS
『なぜ「よそ者」とつながることが最強なのか —生存戦略としてのネットワーク経済学入門—』
三人集まれば文殊の知恵 ..... 椎名 和仁 50

Talk to Talk
足るを知る ..... 肝付 邦憲 58

勞働科學のページ 60

次号予定・編集雑記 64

創立百年――これからの労研の役割とあり方③

ヘルスケア市場における労研の役割に期待

坂本 郁夫

さかもと いくお
パラマウントベッド株式会社
常務取締役
大原記念労働科学研究所 理事

労働科学研究所創立１００周年を迎えられること、心からお祝い申し上げます。大原孫三郎氏をはじめ多くの方の努力で、その時代に於ける労働のあり方を世に問いかけ、発展した事に対し改めて感謝と敬意を表します。

私は、学生時代に人間工学の研究室に入り、高齢者の背中を研究していた時、指導教官から紹介されたのが労働科学研究所でした。前所長の酒井氏の御指導を頂いたのが約半世紀前の出来事であります。その後、今勤務しているパラマウントベッド㈱に入社し、44年が経過しました。一貫して高齢者の背中に着目して医療、介護、健康事業用ベッド等の研究開発、販売に従事させて頂いています。労研との接点が当時無ければ、私の今はないのかもしれません。患者、利用者の視点は勿論、今では看護、介護をしている方の立場から、より付加価値の高い製品やサービスの開発、普及に力を入れております。

約半世紀経った今、私のお客様である医師、看護師、介護福祉士等、ヘルスケアを支えている方が、より働き易く、安全な職場に出来ないか模索を続けております。

近年、ヘルスケア市場は少子高齢化が一段と進み、20年後には約４０００万人が高齢者になり、それを支える生産人口は６０００万人を切る。病院もベッド数を削減し、高齢者施設も首都圏を中心に、その人達全てを収容することは、不可能な状態であります。また、独居の方も急増します。在宅をベースに、医療介護の連携も急がれる事になります。

日本が世界に誇る医療皆保険制度、介護保険制度も少子高齢化、経済発展の鈍化に加え、このコロナウィルスの感染拡大が追い打ちをかけます。今までの医療、介護、福祉の環境を維持する事は難しく、制度設計の見直しや現場の新たな働き方を構築することが不可欠と考えます。

私もＩＣＴ、ＩｏＴ、ロボット等の新たなテクノロジーを使い、この分野の下支えする環境を構築すべく、ヘルスケアイノベーションにチャレンジしています。この分野でも医療勤務環境改善マネジメントシステム研究会をいち早く酒井氏が中心に、関係者（医師、看護師、関連事業者、等）に声をかけて新たな働き方の提案をして来ました。

日本が世界に先行している少子高齢化の中で、新たなヘルスケア環境モデルをつくる上で、その地域に応じた新たな働き方のモデルを作り、世界に発信させる事が日本の役割だと思います。そして、その新たな働き方を支えて頂くのが労働科学研究所だと期待しています。

先人が１００年かけて残した実績、アーカイブや今まで築かれた多くの組織、人的なネットワークを当研究所は保有されています。これらの資産を活用し、科学的根拠に基づいた労働環境、仕組み等を発信し、日本のみならず、世界へ労働科学研究所の存在を示してほしいと思っています。